

知の広場（国際化対応）第2回 国際化アクティブラーニングの進め方

大学院 技術経営研究科 副研究科長 福代和宏

知の広場（国際化対応） スケジュール

日程(仮)	回数	項目
10月2日(水)7・8時限	第1回	オリエンテーション／海外で学ぶ・働く
10月9日(水)7・8時限	第2回	国際化アクティブラーニングの進め方
10月16日(水)7・8時限	第3回	調査方法
10月23日(水)7・8時限	第4回	報告書作成およびプレゼンテーション
10月30日(水)7・8時限	第5回	海外勤務経験者による講演1
11月6日(水)7・8時限	第6回	海外勤務経験者による講演2
11月13日(水)7・8時限	第7回	助言
11月20日(水)7・8時限	第8回	発表会



調べものの学習の進め方

- ▶ 東アジア・東南アジアなど海外情勢を踏まえた上で
 - ▶ (A)海外で働いている人々について, あるいは
 - ▶ (B)海外で働くことの意義について
- ▶ 調査し, 発表する

1. テーマ設定

- ▶ どの国(地域)を対象に, 何を調べるか

2. スケジューリング

3. 調査実施

4. プレゼンテーション資料作成

5. プレゼンテーション(発表会)



チーム編成

- ▶ 前回の宿題としてチーム編成をすることを指示しました
 - ▶ チーム名
 - ▶ 代表者
 - ▶ チーム・メンバー
- ▶ について連絡してください



本日，ここから先の進め方

- ▶ 「テーマ設定」, 「スケジュール設定」, 「調査方法」, 「報告書の作成」などについて先に説明を行います
- ▶ 説明終了後は各チームで作業を進めてください



テーマ設定

- ▶ 今から、チームごとに集まって、以下の点を踏まえてテーマ設定をしてください(今日できない場合には宿題)
- ▶ どの国(地域)を対象とするか
 - ▶ 東南アジア
 - ▶ インドネシア, カンボジア, シンガポール, タイ, フィリピン, ブルネイ, ベトナム, マレーシア, ミャンマー, ラオス, 東ティモール
 - ▶ 東アジア・南アジア
 - ▶ 中国, 韓国, 香港, マカオ, 台湾, パキスタン, インド, バングラデシュ, スリランカ
- ▶ 何を調べるか
 - ▶ 現地で活躍する日本人, 日系企業
 - ▶ 対象国(地域)の経済的・文化的・〇〇的な魅力
- ▶ 選定理由
 - ▶ なぜ, そのようなテーマを選んだか?
 - ▶ 自分が行ってみたい
 - ▶ その国の将来性



テーマ設定のためのブレイン・ストーミング

- ▶ Brainstorming: アレックス・F・オズボーンによって考案された集団発想法
- ▶ ブレインストーミングの4原則
 - ▶ 批判・結論厳禁
 - ▶ 自由なアイデア抽出を制限するような、批判・結論は禁止する
 - ▶ 自由奔放
 - ▶ 奇抜な考え方やユニークで斬新なアイデアを重視する
 - ▶ 質より量
 - ▶ 様々な角度から、多くのアイデアを出す
 - ▶ 結合改善
 - ▶ 別々のアイデアをくっつけたり一部を変化させたりする
 - ▶ 他人の意見に便乗する

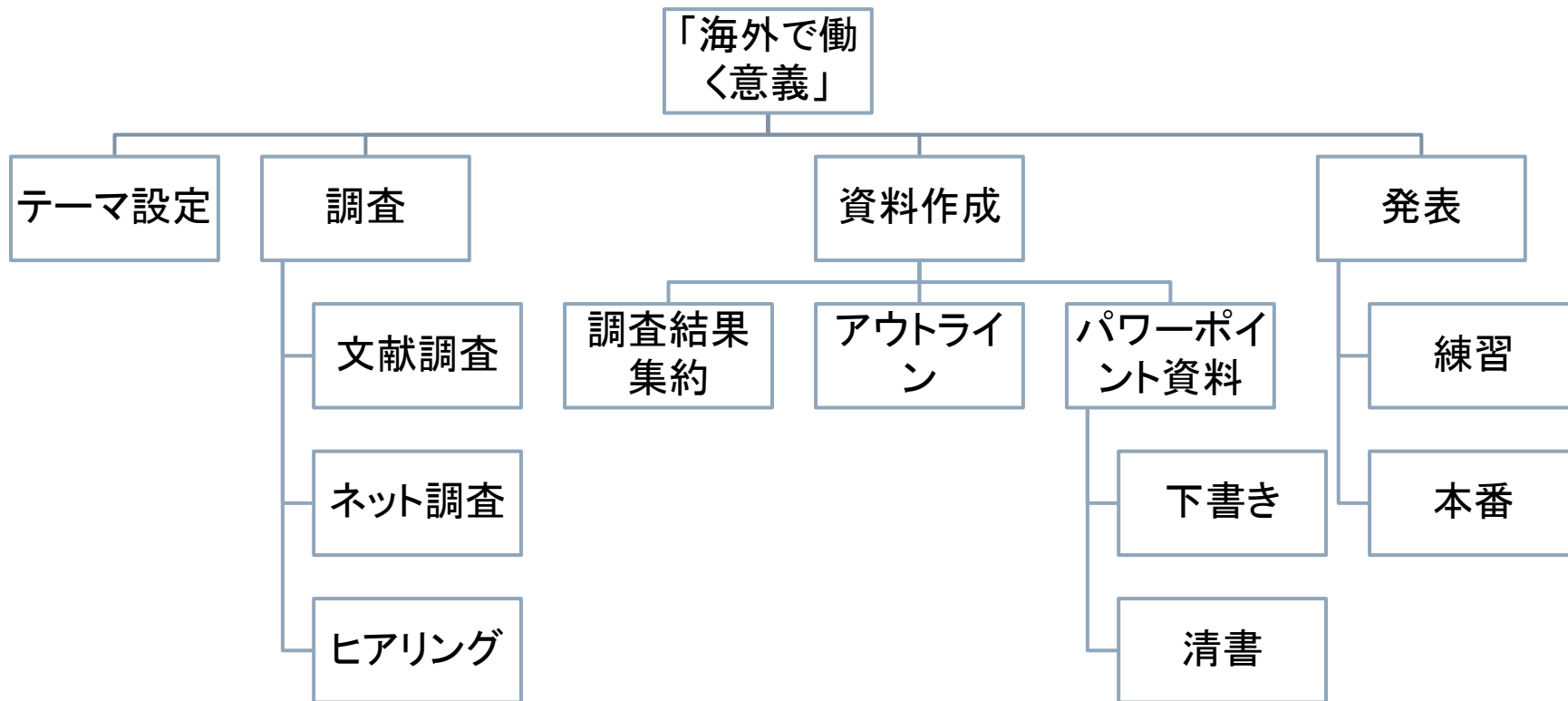


スケジュール設定

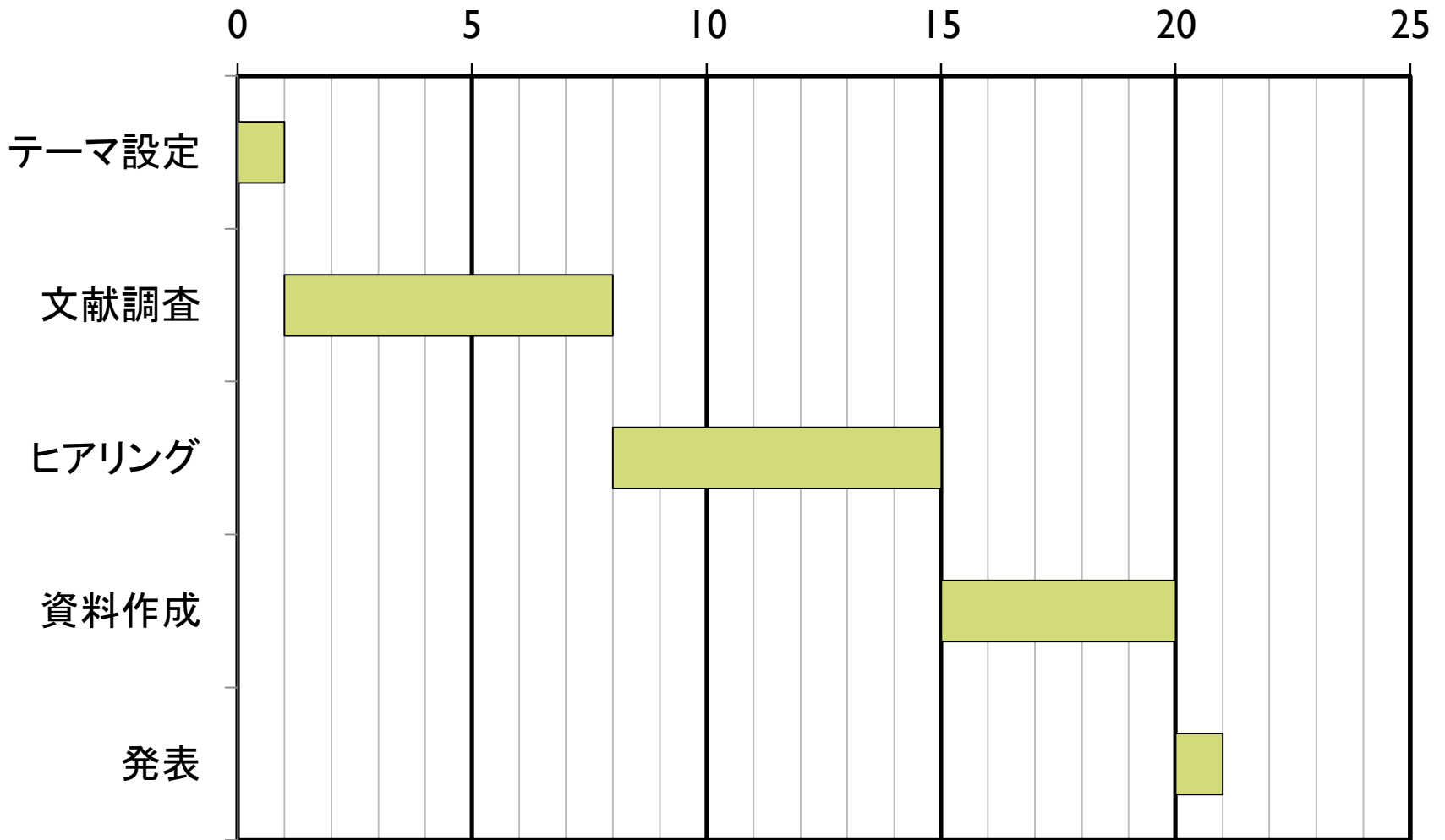
- ▶ 11月20日(水)7・8時限の発表に間に合うように各チームの活動計画を立ててください
- ▶ やり方の例：
 - ▶ 作業をWork Breakdown Structure (WBS)によって分解する
 - ▶ ガントチャートで計画を立てる
 - ▶ 参考:「Excelでデータをガントチャートで表示する」
 - ▶ <http://office.microsoft.com/ja-jp/excel-help/HA010238253.aspx>



WBSの例



ガントチャートの例



調査方法

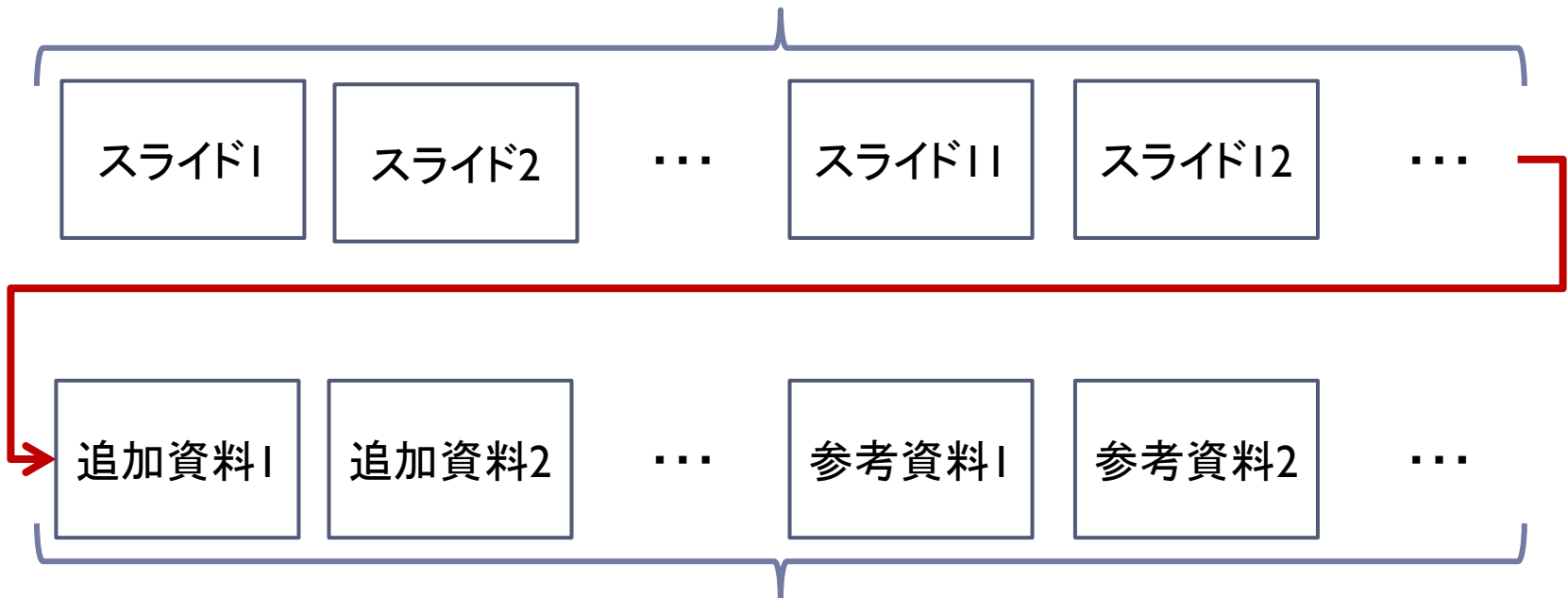
- ▶ 詳細は次回紹介します
- ▶ 調査の必要性
 - ▶ 何かを主張しようとするれば、根拠がなくてはなりません
 - ▶ 記者は記事を書くときには取材によって、研究者は論文を書くときには実験やシミュレーションによって主張内容の根拠を得ます
 - ▶ ある国で働くことの意義を主張しようとするれば、その国の実情、実際にその国で働いている人の経験などを調べて根拠資料としなくてはなりません
- ▶ どのような調査があるか？
 - ▶ 文献調査
 - ▶ 図書館などへ・・・新聞記事, 本, 論文
 - ▶ ネット調査
 - ▶ インターネットを利用・・・Google, Wikipedia (ただし, 同じ情報に偏りがち)
 - ▶ ヒアリング
 - ▶ 実際に海外体験のある人に聞く
 - ▶ 自分の海外経験を述べる



報告書の作成について

- ▶ プレゼンテーションで使用するパワーポイント資料をそのまま報告書として提出していただきます
- ▶ プレゼンテーションで使用するスライドを前方に、参考資料やその他の資料を後方にまとめます

プレゼンテーションで使用する



プレゼンテーションでは使用しない

発表用スライドの構成

- ▶ 表紙(1枚)
- ▶ 調査を行った目的, 背景(1~2枚)
- ▶ 本題(例, 8~9枚)
 - ▶ 対象国(地域)の社会・経済の状況
 - ▶ 対象国で活躍する人物
 - ▶ その人物が直面した問題など様々なエピソード
 - ▶ 今回の調査から学んだこと, 気づいたこと
 - ▶ 今後の留学などに生かせること
- ▶ まとめ(1枚)
 - ▶ 何について調査をしたか
 - ▶ 何がわかったか



次回までの宿題

- ▶ 少なくとも各チームでテーマだけは設定しましょう
- ▶ 調査を開始しても構いません(調査方法についての説明は次回やりますが)

